

「タイ・フィールド調査 参加報告書」

京都大学アジア・アフリカ地域研究科1年 吉田 祐貴

①学習成果

自分はタイの農業や食に関することを研究したいと思っているのだが、まだそうした農業に関する部分に触れたことが無かった。今回、このプログラムに参加させていただいたのは、このプログラムを通じてそうした自分にとって有益な経験ができるのではないかと思ったからである。

今回のプログラムの中で、タマサート大学の学生とプレゼンテーションを行ったが、自分は英語でプレゼンをするのがはじめてで、上手く発表ができなかった。また、英語で質問されて、それに答えるのは難しいことであると実感した。国際理解をするにあたって、現地語の取得というのも非常に大事なことであるが、やはり英語を話すことができなければ、現地の研究者とのアカデミックな議論をすることができず貴重な機会を逸してしまうことから、英語で発言することの必要があると実感した。日本では、英語に触れる機会は少ないと思うが、私の研究室では、時折外部の研究者の方をお呼びしてのワークショップが催されることから、そうした場に通おうと思った。

それと同時に、大学での学習の中で、自分の意見を日本語でもいいので表明する場をもっと広げる必要もあるなとも感じた。自分は今まで、人の話しや本を読むことを通して学んで来ることが多く、自分が意見をいうということをあまり行ってこなかったように思う。しかし意見をいい、他人の批判や承認を受けることによってより知識が広がることを今回実感した。それゆえ、自分の意見をぶつけるようなことも積極的に行いたいと思う。

今回の派遣を通して、自分の研究はタイという外国を対象にした研究である以上、自分一人ですべてやっていくには限界があり、現地の学生や研究者の協力なしには進めることができないことが多いということも分かった。そうした制約は不可避であるが、現地の学生や研究者との交流の幅を広げて協力しながら進めていく必要があると感じた。

②海外での経験

わたしは依然タイに訪れたことがあり、タマサート大学周辺の地理は覚えており、不安なく生活することができた。一方、チェンマイやアユタヤなどの地域ははじめて訪れたため、あまり勝手が分からなかった。

しかし今回は、タイからの留学生が1名同行していたため、現地での滞在中は特に問題なく終えることができた。

タイでは英語を話すことができるのは、観光地や大規模な商業施設のような外国人の訪問の多い地域に限られている。ましてや日本語の通じる地域はほとんど限られている。それゆえに、英語での会話はもちろんのこと、観光地から少し離れた市場などで買い物する際は、ある程度のタイ語を使えた方が現地の生活を困らさず過ごすうえでは必要だと感じた。

③プログラム内容

今回のプログラムは、タマサート大学との連携プログラムであり、タマサート大学にてタイの文化や経済に関する授業を受けつつ、タマサート大学の学生とのプレゼンテーションや相互交流を行った。また、授業の後は、フィールドトリップの形で、バンコク郊外にある国会やタイの企業、文化遺産や建造物などを訪れ、タイならびにその中心地であるバンコクに関する理解を深めた。

プログラムの後半は、タイの第2の都市と言われるチェンマイに滞在し、チェンマイ大学で北部タイの文化に関する授業を受け、現地の工業団地に進出している日本企業の話し、さらには遠隔地で農業をしている現地の農家の話しを聞くなどし、北部地域における産業の現状を学んだ。

タイのことは日本でも学ぶことはできるが、同じ内容の話でも現地で生活する人の体験を基にした話し、タイ人の研究者が見るタイの文化的・社会的特徴などを学ぶことができたのは非常に良い経験だった。しかし、互い

の言葉が分からないため、英語での会話の必要が大きいと感じた。

④進路への影響について

わたしは、次にタイ語の取得のために3カ月間のタイへの滞在を考えているが、今回のプログラムの中で、英語でのコミュニケーションも必要であると実感したので、同時にそちらの勉強も並行していきたいなと思っている。

12日間のプログラムを通じて、バンコクの都心部にある企業のビルから、バンコクのダウンタウンに軒を並べる屋台、アユタヤの観光地に特化された地域、さらにはバンコクとチェンマイの都市部の違い、チェンマイ郊外の工業団地と遠く離れた農村部の姿などを見て、一つにまとめて語ることのできないタイのさまざまな姿を見ることができた。今後の研究の中で、こうした背景を考慮しながら研究を進めていく必要があるなと感じた。

また、このプログラムを通して、自分の研究対象と考えている農業や食に関する調査においても、農村部だけでなく、郊外の小売店や都市部のスーパーなどの商業施設など、他の地域とのかかわりの中で考える必要があるなとも感じた。

今回のプログラムを得たことを基に、現地調査に臨みたいと思う。